

大館労働基準監督署発表  
令和5年12月28日

【照会先】  
大館労働基準監督署  
署長 田村 功悦  
安全衛生課長 千葉 知幸  
(電話) 0186-42-4033

報道関係者 各位

## ～転倒災害が増えています～

### 「凍結や積雪路面での転倒災害が多発」

大館労働基準監督署管内（大館市、北秋田市、鹿角市、小坂町及び上小阿仁村）における昨年までの労働災害発生状況を取りまとめたところ、転倒災害が増加傾向にあることから、降雪期の転倒災害防止についてお知らせします。

降雪期に向け秋田労働局では「転倒防止かべ新聞等」（資料1）を作成、配布し、転倒災害防止対策の徹底を呼び掛けております。

当署管内の転倒災害の多くは、凍結や積雪路面によるものであり、管内は降雪のほか、冷え込みが厳しいこと、日中と夜間の温度差が大きいことから、溶けた雪が凍るなどにより、積雪下の路面が凍結している状況での駐車場や敷地内の歩行中の災害が多く発生していることも原因の一つと考えます。

大館署においては窓口に転倒災害防止に係るリーフレット（資料2）や「転倒防止かべ新聞」などを用意しているほか、降雪期の下記の転倒災害防止対策の取組について指導を進めて参ります。

※秋田労働局ホームページの「STOP! 転倒災害プロジェクト」（特設サイト）からも入手可能となっております。

#### 【降雪期における転倒災害の特徴（当署管内）】

- 業種別（H29～R4）では、商業と保険衛生業がともに24.3%と最も多く、次いで、製造業で20.1%となっています。（別紙1・図表4）
- 月別（H29～R4）では、**降雪期に約6割（57.2%）発生**している状況となっています。（別紙1・図表6）
- 発生場所（R2～R4）は、屋外が74.8%と最も多く、屋内が25.2%となっており、そのうち、雪又は凍結路面等が起因した転倒災害の発生場所は、**敷地内通路（歩行中）が37.8%と最も多く、次いで、敷地内駐車場（車周辺）が33.8%、事業場外（道路）が14.9%**となっています。（別紙2・図表7、8）
- 発生時間帯（R2～R4）では、9時帯が16.5%と最も多く、次いで、10時帯が15.5%、8時帯が12.6%となっています。（別紙3・図表9）
- 被災者の年齢別（R2～R4）では、60歳以上が41.7%と最も多く、次いで、50歳代が26.2%と、**50歳以上の労働者の占める割合が約7割（67.9%）**となっています。（別紙4・図

表 10)

- ・ 被災程度別（R2～R4）では、休業1月以上3月未満が54.4%と最も多く、次いで、2週以上1月未満が27.2%となっており、一度発生すると、長期休業を要する傾向を示しています。（別紙4・図表11）

**【転倒災害防止対策】**（資料1～4）

転倒災害防止対策として、以下の内容に係る取組の実施をお願いします。

- ・ 転倒予防のためのいきいき健康体操、労働者の転倒リスク測定の取り組み
- ・ 転倒危険場所への注意表示（見える化）、通路等の整理整頓や段差の解消による転倒災害防止
- ・ 屋外通路の除雪、融雪剤の散布による凍結防止
- ・ 足のサイズに合った靴、靴底がすり減っていない靴の着用

**【問合せ先】**

大館労働基準監督署 安全衛生課（担当：千葉）

〒017-0897 大館市字三の丸6-2 電話：0186-42-4033

報道機関の皆様には、労働災害防止に向けた取組について関係者をはじめ県民に広く浸透するよう、取材・報道をお願いいたします。

添付資料等

- 別紙1 転倒災害の発生状況
- 別紙2 降雪期の転倒災害・発生場所
- 別紙3 降雪期の転倒災害・時間別発生件数
- 別紙4 降雪期の転倒災害・年齢別及び程度別

- 資料1 転倒防止かべ新聞・ポスター
- 資料2 STOP！転倒災害（大館署作成）
- 資料3 労働者の転倒災害を防止しましょう（リーフレット）
- 資料4 転倒予防のために適切な「靴」を選びましょう（リーフレット）

# 転倒災害の発生状況

(被災者数は、労働者死傷病報告(休業4日以上)を集計したもの。)

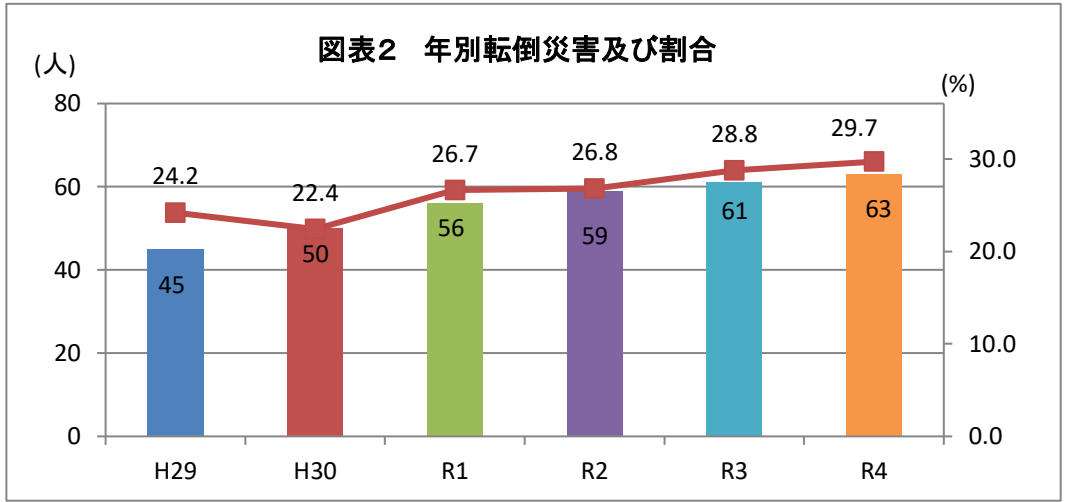
大館労働基準監督署

図表1 転倒災害業種別(大分類)災害発生状況

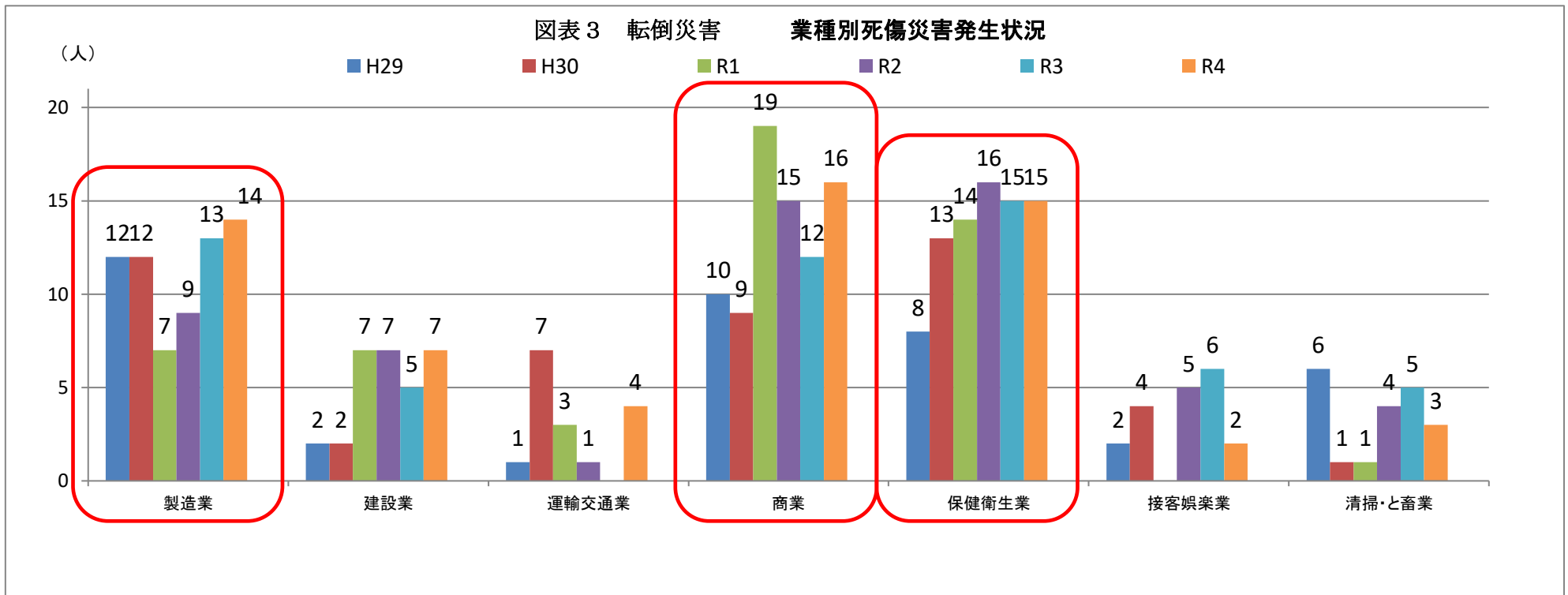
業種	H29	H30	R1	R2	R3	R4	29~4
製造業	12	12	7	9	13	14	67
鉱業			1				1
建設業	2	2	7	7	5	7	30
運輸交通業	1	7	3	1		4	16
林業			1				2
商業	10	9	19	15	12	16	81
保健衛生業	8	13	14	16	15	15	81
接客娯楽業	2	4		5	6	2	19
清掃・と畜業	6	1	1	4	5	3	20
その他	4	2	3	2	5	1	17
小計	45	50	56	59	61	63	334
割合(%)	24.2	22.4	26.7	26.8	28.8	29.7	26.4
全事故の型	186	223	210	220	212	212	1,263

※R3以降新型コロナを除く

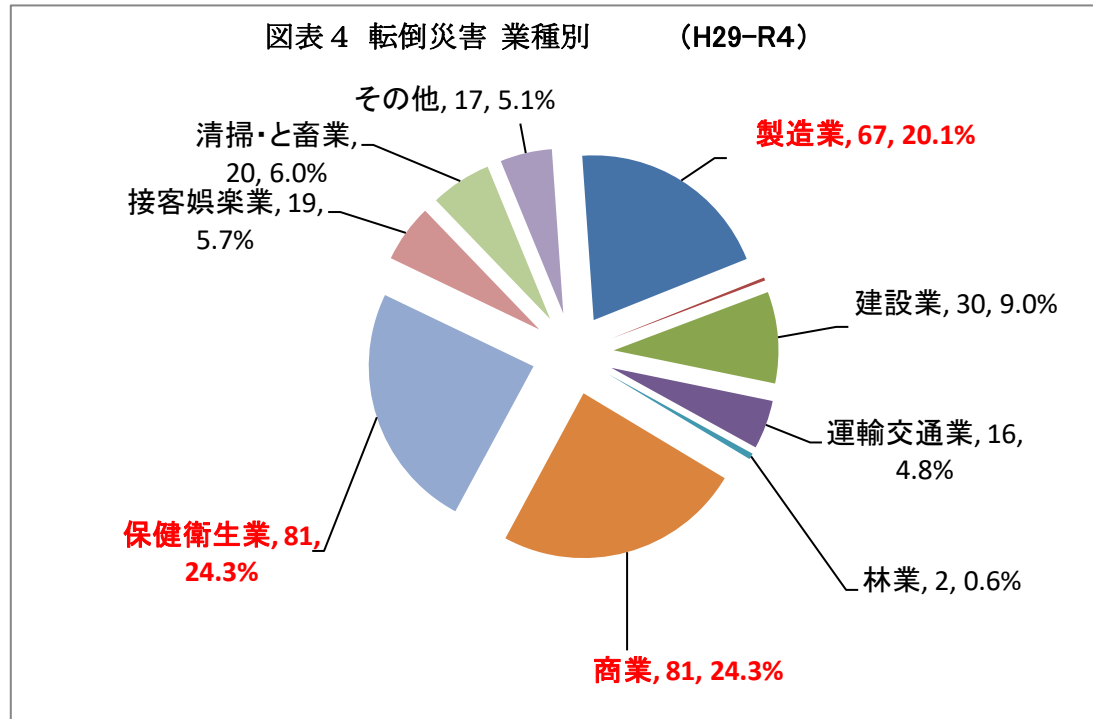
図表2 年別転倒災害及び割合



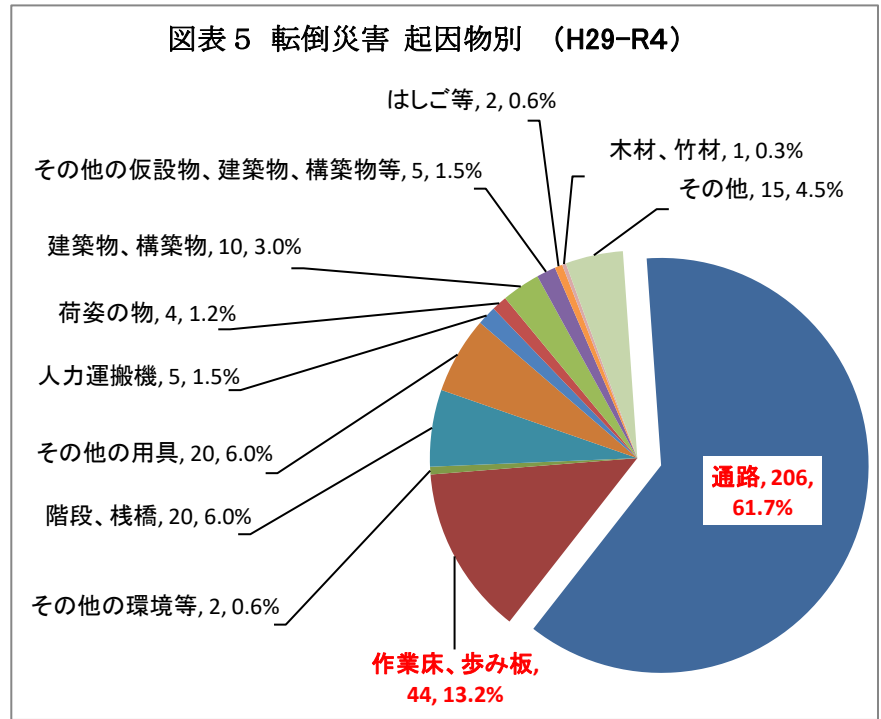
図表3 転倒災害 業種別死傷災害発生状況



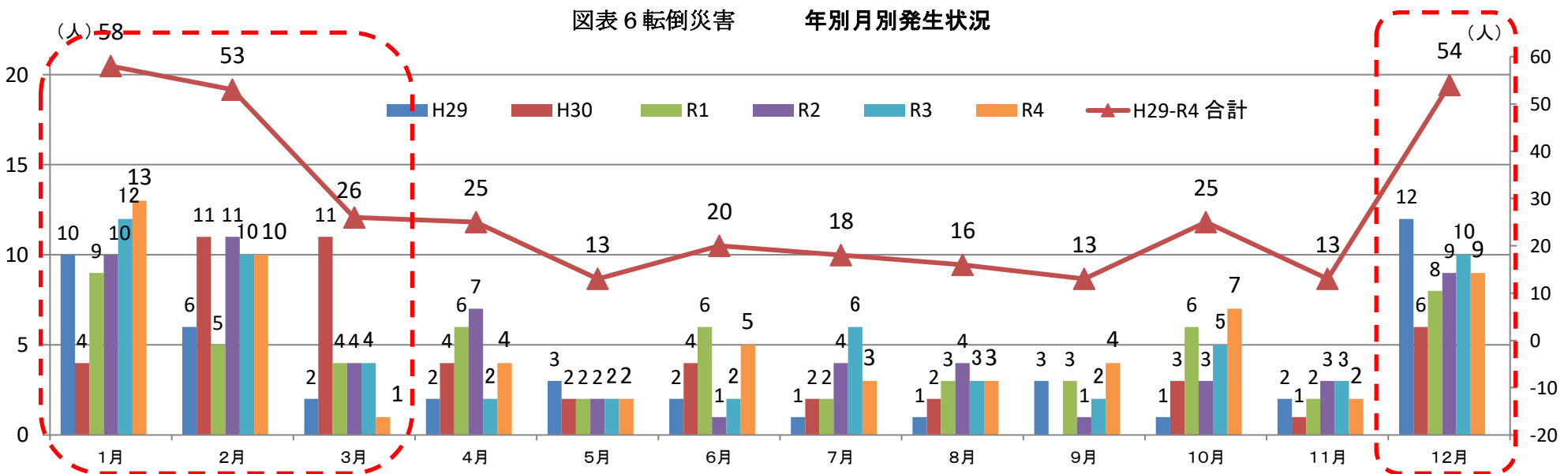
図表4 転倒災害 業種別 (H29-R4)



図表5 転倒災害 起因物別 (H29-R4)



図表6 転倒災害 年別月別発生状況

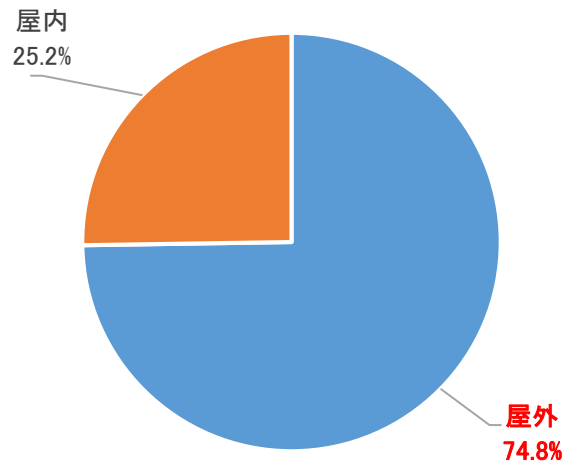


## 降雪期の転倒災害・発生場所

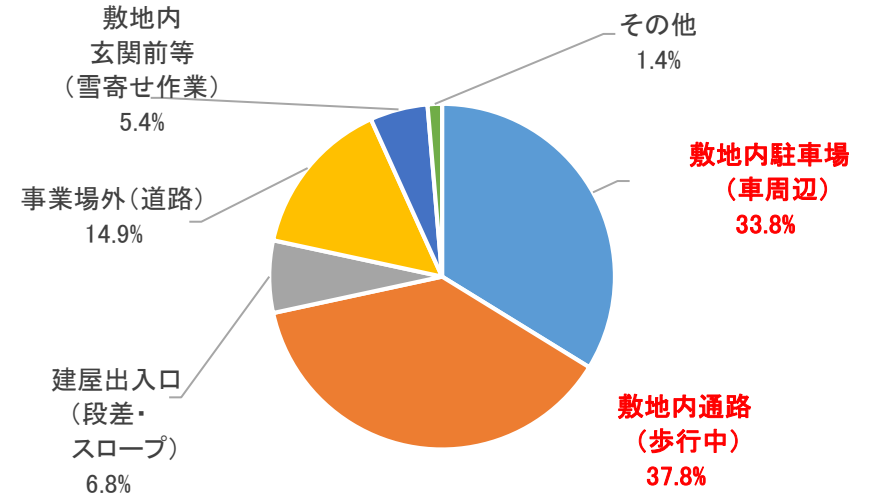
大館労働基準監督署

年	屋外	屋内	合計	内 訳						
				屋外の内、雪 又は凍結等が 起因	敷地内駐車場 (車周辺)	敷地内通路 (歩行中)	建屋出入口 (段差・ スロープ)	事業場外(道路)	敷地内 玄関前等 (雪寄せ作業)	その他
R 4	27	6	33	27	7	9	2	4	4	1
R 3	27	9	36	25	6	11	2	6		
R 2	23	11	34	22	12	8	1	1		
合計	77	26	103	74	25	28	5	11	4	1

図表7 降雪期転倒災害 発生場所別(R2~R4 大館署)



図表8 降雪期転倒災害のうち雪又は凍結等が起因した転倒災害の発生場所(R2~R4 大館署)

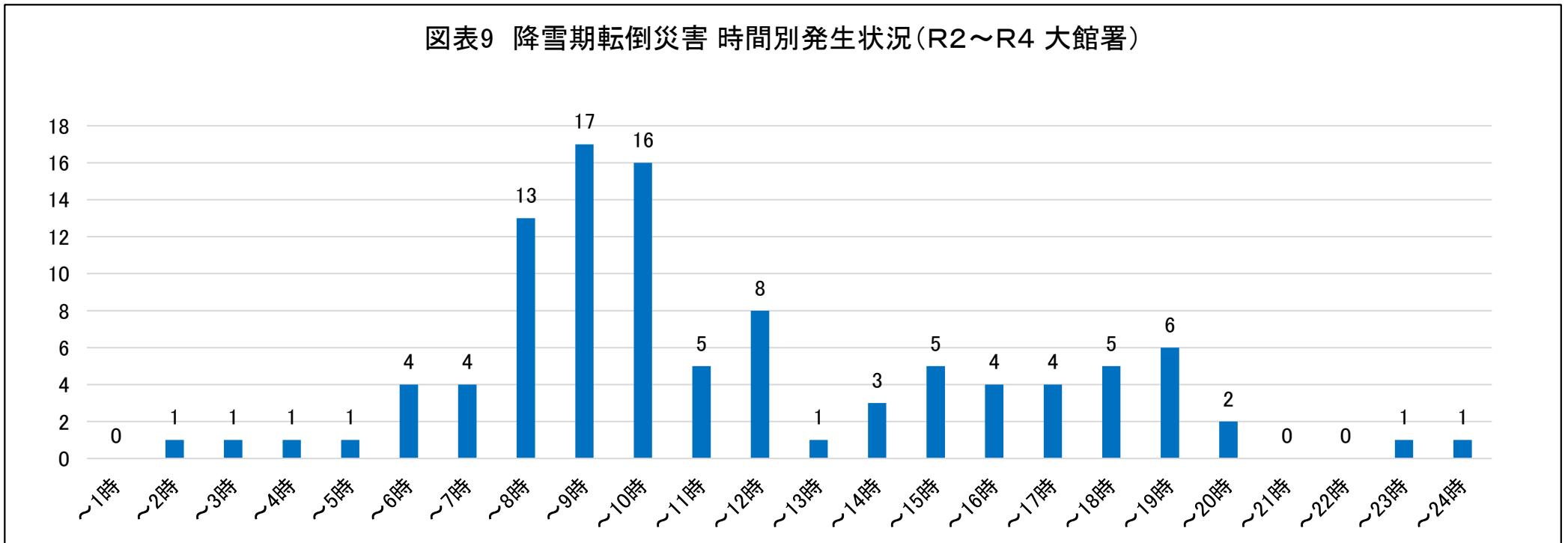


降雪期の転倒災害・時間別発生件数

大館労働基準監督署

	～1時	～2時	～3時	～4時	～5時	～6時	～7時	～8時	～9時	～10時	～11時	～12時	～13時	～14時	～15時	～16時	～17時	～18時	～19時	～20時	～21時	～22時	～23時	～24時	合計
R 4				1		2	1	5	6	6	2	3		1	1	2			2					1	33
R 3		1	1		1		1	3	6	4	2	2	1	2	1	1	3	3	2	1				1	36
R 2						2	2	5	5	6	1	3			3	1	1	2	2	1					34
合計	0	1	1	1	1	4	4	13	17	16	5	8	1	3	5	4	4	5	6	2	0	0	1	1	103

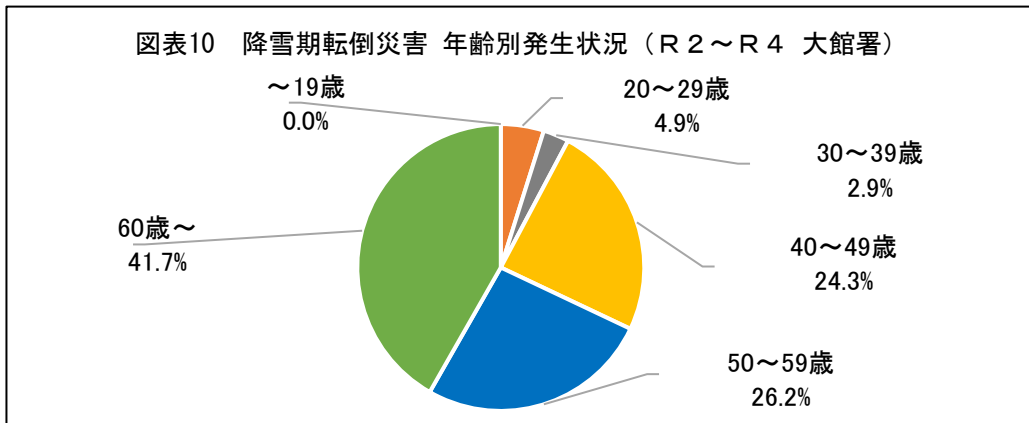
図表9 降雪期転倒災害 時間別発生状況(R2～R4 大館署)



降雪期の転倒災害・年齢別

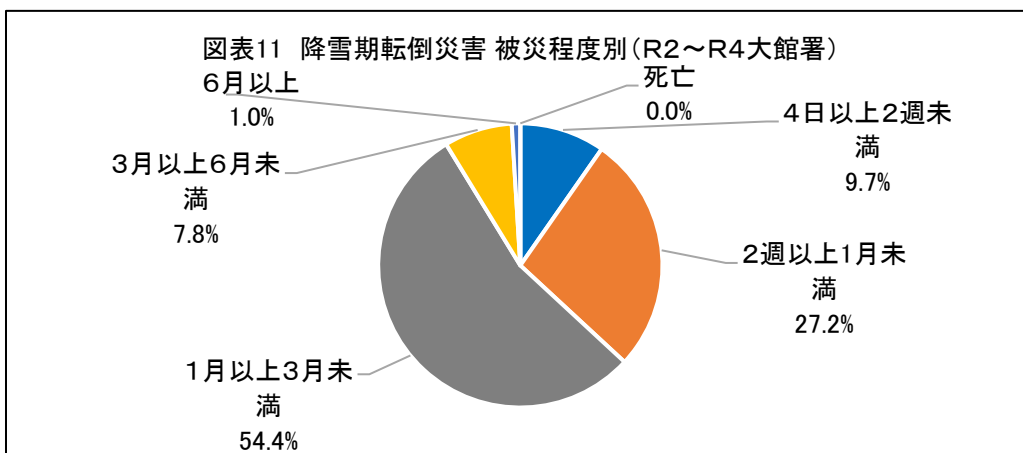
大館労働基準監督署

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～	計
R 4		2	1	9	10	11	33
R 3		2	1	7	7	19	36
R 2	0	1	1	9	10	13	34
合計	0	5	3	25	27	43	103



降雪期の転倒災害・程度別

	4日以上2週未満	2週以上1月未満	1月以上3月未満	3月以上6月未満	6月以上	死亡	計
R 4	6	8	18	0	1	0	33
R 3	1	8	21	6	0	0	36
R 2	3	12	17	2	0	0	34
合計	10	28	56	8	1	0	103



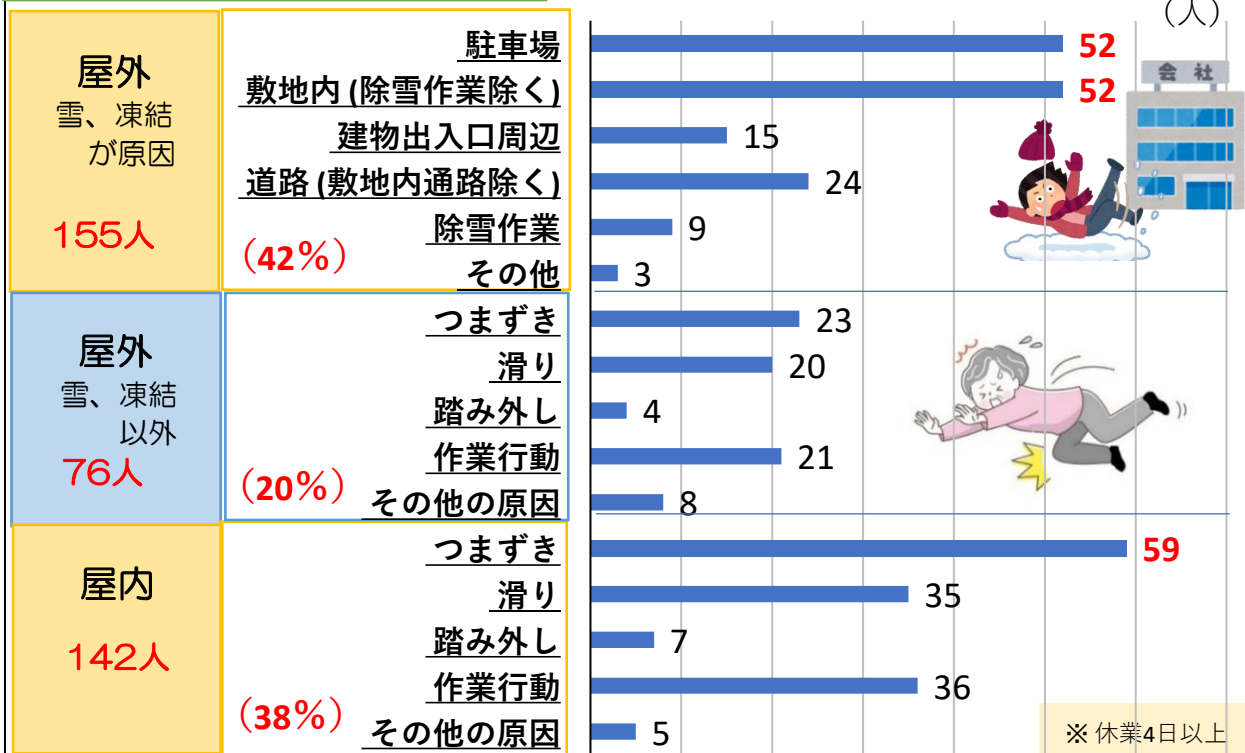


# 要警戒 冬季の転倒災害!!

## 屋内での「つまずき」にも注意

「屋内・屋外別」、「発生場所」、「転倒の原因別」(令和4年秋田県内)

転倒災害による被災者数：373人

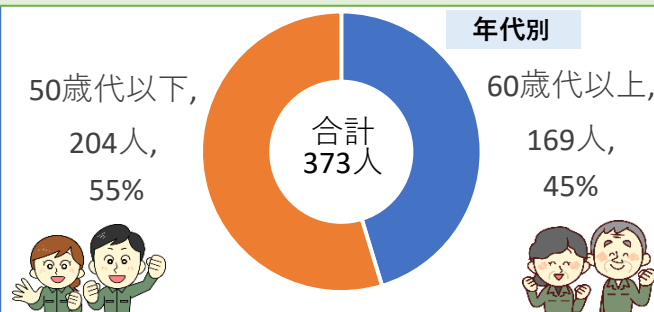


# 転倒防止 かべ新聞

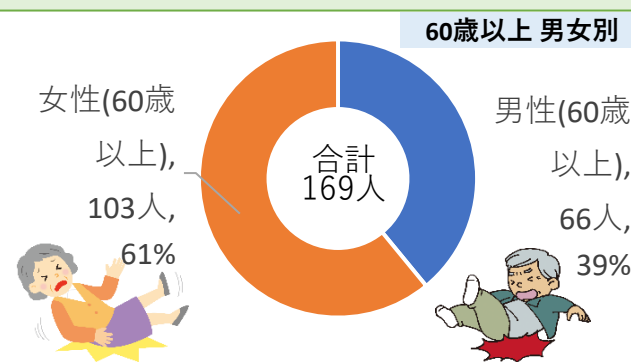


発行：2023.11 Vol.5  
秋田労働局  
労働基準部 健康安全課  
秋田市山王7丁目1-3

60歳以上の転倒災害の割合は45%



そのうち、女性の割合は61%



**屋外での転倒災害は62%!!** 冬季(12月~3月)の転倒災害は57%、その原因は「雪、凍結」が42%!! そのうち、発生場所が「駐車場」と「敷地内(除雪除く)」が最多! 雪や凍結した通路等で、滑って転倒することを防止するため、除雪・融雪、滑りにくい冬靴の着用、また、足元が十分に確認できるよう照明の確保等を徹底しましょう。

### 高齢女性の転倒リスクは高い!?

中高年齢労働者の転倒災害、特に加齢による骨密度の低下等が顕著な高齢女性の災害発生率が高い状況にあります。整理整頓や段差の解消等といった「ハード対策」のほか、転ばない体づくりなど、個々の労働者の転倒やケガのしやすさへの対応といった「ソフト対策」が重要です。加齢に伴い身体機能が徐々に低下すると、筋力、バランス感覚、瞬発力、柔軟性等が衰え、とっさの反射的防御動作が素早く行えなくなります。厚生労働省では、転倒災害防止のための「ソフト対策」の導入にお役立ていただくため、以下のようなYouTube動画を配信していますので、是非、取り組んでみてください。

### 転倒・腰痛予防! 「いきいき健康体操」 全15種類のうち、2種類を紹介!!

#### 1. じっくりスロースクワット

**足腰を鍛える運動**です。人生100年時代を乗り切るため、毎日行いたい基本体操と言えるでしょう。両手を前へ出すと、バランスがとりやすくなります。しゃがむ深さは太ももが床と平行になるくらいが目安ですが、ご自分の体力に合わせて行ってください。

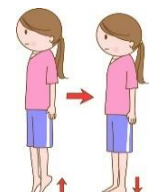


#### チェックポイント

- ✓ 膝とつま先が同じ方向を向いているか
- ✓ 膝がつま先より前に出ず行えているか
- ✓ 沈んだ状態から戻る際に膝を伸ばし切らずに行えているか

#### 2. 骨太かかと落とし

かかとを刺激して**骨粗しょう症の予防**を目指します。つま先立ちから、かかとをしっかりと落とします。同時に手拍子を打つと、脳の活性化も期待できます。



#### チェックポイント

- ✓ かかと落としと手拍子がリズムにあっているか

転倒腰痛予防体操

検索

転倒リスク2ステップ

検索



QRコードから動画が視聴できます



#### 測定目的

歩行能力、下半身の筋力を把握するため、2歩でどれだけ進んだかを測定します。

#### 測定時の注意点

- ・滑りにくい床を選びましょう。
- ・ケガや痛みがある場合は、実施を見合わせましょう。

#### 測定方法

- 1 両足のつま先をスタートラインに揃えて立ちます。
- 2 反動をつけずに可能な限り大股で2歩あるき、2歩目の位置で両足を揃えて立ちます。
- 3 スタート位置から2歩目のつま先までの距離を測ります。

#### 測定結果の見かた

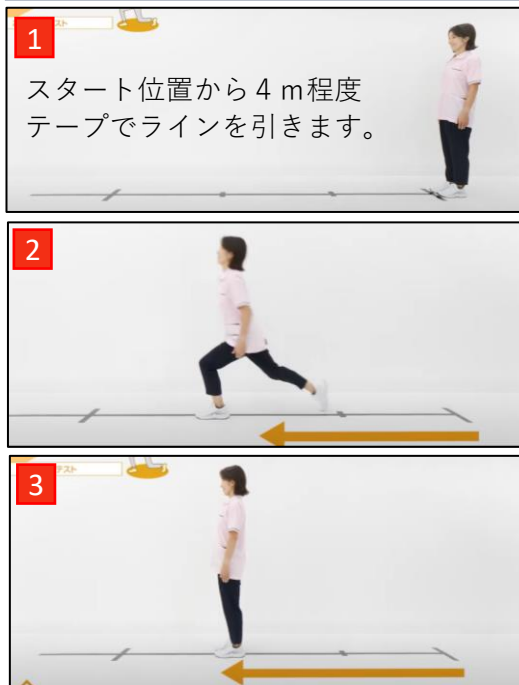
- ・進んだ距離 ÷ 身長 = 結果
- ・結果を評価表に当てはめます。
- ・評価表の数値が「5」に近いほど転倒などのリスクが低い。
- ・特に「2」以下の場合は転倒等のリスクが高く注意が必要です。

次の場合は測定をやり直します。

- ・スタート位置がずれる・バランスを崩して手をついてしまう・ジャンプする
- ・両足で止まれない・歩行動作を止める・足を引きずって立ち上がる

### 転倒リスクを 測定してみよう!!

#### 2ステップテスト

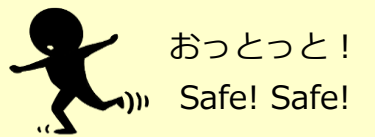


#### 測定結果

評価	1	2	3	4	5
距離 / 身長	~ 1.24	1.25 ~ 1.38	1.39 ~ 1.46	1.47 ~ 1.65	1.66 ~

# 秋田の冬は

# 転ばない!



**ニット帽**

(転倒時の緩衝)

**少し前傾姿勢**

(足元すくわれるのを防ぐ)

**足元の点灯**

(ヘッドライト等になると  
両手フリーで更に有効)

(リュックなどで)  
**両手をフリー**

**手袋の着用**

(転倒時の緩衝)

**滑りにくい靴  
の着用**

**平面着地**

(のように歩行)

**少しだけ  
小幅で歩く**

危険箇所の「見える化」の取組みもお願いします

転倒注意



ぬれた床  
滑りやすい

転倒注意



屋外に出るとき  
履物交換

転倒注意



足元注意  
(通路の荷物)

転倒注意



この先  
段差あり



# STOP! 転倒災害



秋田労働局・転倒災害防止プロジェクトチーム



# STOP! 転倒災害

STOP! 転倒災害  
プロジェクト

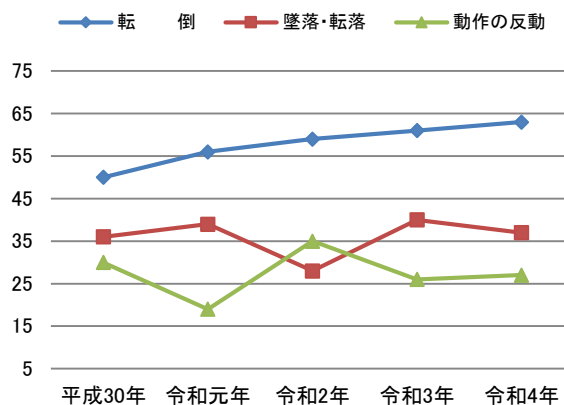
## 1 労働災害発生状況(事故の型別)

当署管内(大館市・北秋田市・鹿角市・小坂町・上小阿仁村)において発生した労働災害を事故の型別で見ると、過去5か年では「**転倒**」災害が最も多い状況です。令和4年における労働災害は**212件**発生(新型コロナウイルスを除く)し、そのうち「**転倒**」災害は**63件**発生しており、全体の**約30%**を占めています。

【秋田労働局管内(令和4年)】

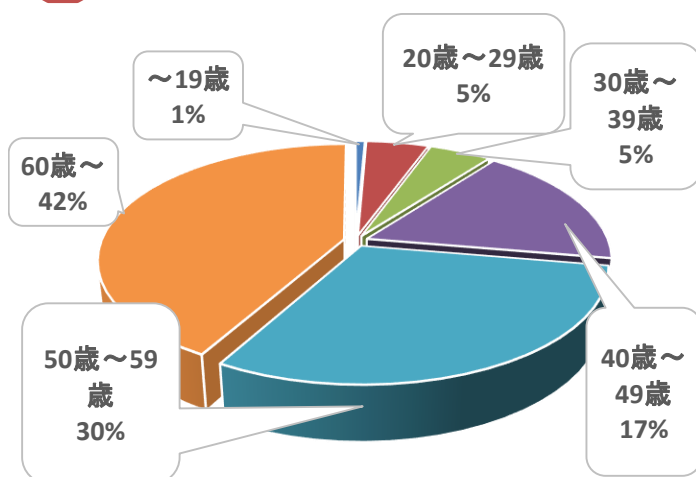
労働災害は**1,155件**発生(新型コロナウイルスを除く)し、そのうち「**転倒**」災害は**373件**発生しており、全体の**約32%**を占めています。

平成30年～令和4年 事故の型別 労働災害発生状況



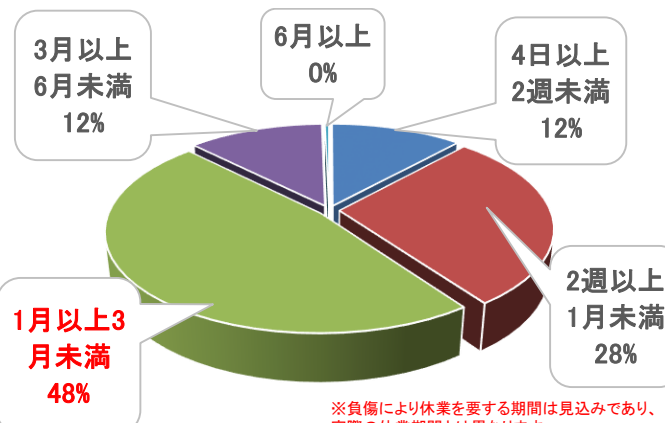
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
転倒	50	56	59	61	63
墜落・転落	36	39	28	40	37
動作の反動	30	19	35	26	27
全発生件数	223	210	220	218	212

## 2 中高年の方が多く、休業期間も長期化



負傷者を年齢別(性別問わず)に分析すると、**60歳以上の方が約42%**、**50歳から59歳の方が約30%**であり、年齢が高くなるほど負傷者が多くなる傾向にあります。

負傷により休業を要する期間は、**1月以上3月未満の方が137件と全体の約48%**を占めています。**転倒災害**では、**大腿骨や手首の骨折などにより長期療養や重い後遺障害の残る災害**が発生しています。



※負傷により休業を要する期間は見込みであり、実際の休業期間とは異なります。



### 3

## 転倒災害防止のためのセーフティチェックの実施

安全委員会の委員等による職場巡視を定期的実施し、下記のセーフティチェック項目等により設備点検を行い、必要な設備改善や労働者の意識啓発を行いましょよう。

### セーフティチェック項目

1	通路、階段、出口などに荷物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>
5	作業靴は、作業現場に合った滑動性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいませんか	<input type="checkbox"/>
6	ヒヤリハット情報を利用して転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに、注意を促す標識をしていますか	<input type="checkbox"/>
8	ながらスマホやポケットに手を入れたまま歩くこと、手すりを持たない階段の昇降などを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>
10	天気予報を確認していますか	<input type="checkbox"/>
11	時間に余裕をもった歩行、作業を行っていますか	<input type="checkbox"/>
12	駐車場の除雪や融雪は万全に行っていますか	<input type="checkbox"/>
13	職場の危険マップ、適切な履物、歩行方法などの安全教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>

### 4

## 他社の取り組みに学ぶ、転倒災害防止対策

#### ☑セーフティチェック1の対応事例

荷物の積み重ね高さを制限し視界を確保する。また、荷物を所定の場所以外に置かせない。

#### ☑セーフティチェック3の対応事例

従来の蛍光灯以上の照度を有するLEDに変更する。

#### ☑セーフティチェック7の対応事例

危険場所に注意を促すステッカーを掲示する(転倒の危険の見える化)。

#### ☑セーフティチェック9の対応事例

転倒予防を目的としたストレッチ体操を導入する。



危険の「見える」の表示例

2月・6月は重点取組期間です!!

## STOP! 転倒災害プロジェクト

事業者の皆さまは、職場の転倒災害防止対策を進めていただくとともに、プロジェクトの重点取組期間(2月、6月)には、チェックリストを活用した総点検を行ってください。

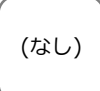

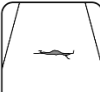
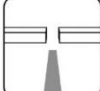


転倒災害防止対策に関する資料等は、秋田労働局のホームページに掲載されておりますので、ご覧ください!







# 労働者の転倒災害（業務中の転倒による重傷）を防止しましょう

50歳以上を中心に、転倒による骨折等の労働災害が増加し続けています  
事業者は労働者の転倒災害防止のための措置を講じなければなりません

## 「つまずき」等による転倒災害の原因と対策

- 
**何もないところでつまずいて転倒、足がもつれて転倒 (27%)**  
 ▶**転倒や怪我をしにくい身体づくり**のための運動プログラム等の導入 (★)  
職場3分エクササイズ 中央労働災害防止協会 転倒予防セミナー
- 
**作業場・通路に放置された物につまずいて転倒 (16%)**  
 ▶バックヤード等も含めた**整理、整頓**（物を置く場所の指定）の徹底
- 
**通路等の凹凸につまずいて転倒 (10%)**  
 ▶敷地内（特に従業員用通路）の**凹凸、陥没穴等**（ごくわずかなものでも危険）を確認し、**解消**
- 
**作業場や通路以外の障害物（車止め等）につまずいて転倒 (8%)**  
 ▶適切な通路の設定  
 ▶敷地内駐車場の車止めの「見える化」
- 
**作業場や通路の設備、什器、家具に足を引っかけて転倒 (8%)**  
 ▶設備、什器等の角の「見える化」
- 
**作業場や通路のコードなどにつまずいて転倒 (7%)**  
 ※引き回した労働者が自らつまずくケースも多い  
 ▶転倒原因とならないよう、電気コード等の引き回しのルールを設定し、労働者に遵守を徹底させる

## 「滑り」による転倒災害の原因と対策

- 
**凍結した通路等で滑って転倒 (25%)**  
 ▶従業員用通路の除雪・融雪。凍結しやすい箇所には融雪マット等を設置する (★)
- 
**作業場や通路にこぼれていた水、洗剤、油等により滑って転倒 (19%)**  
 ▶**水、洗剤、油等がこぼれていることのない状態を維持する。**  
 （清掃中エリアの立入禁止、清掃後乾いた状態を確認してから開放の徹底）
- 
**水場（食品加工場等）で滑って転倒 (16%)**  
 ▶滑りにくい履き物の使用（労働安全衛生規則第558条）  
 ▶**防滑床材・防滑グレーチング等の導入、**摩耗している場合は再施工 (★)  
 ▶隣接エリアまで濡れないよう処置
- 
**雨で濡れた通路等で滑って転倒 (15%)**  
 ▶雨天時に滑りやすい敷地内の場所を確認し、防滑処置等の対策を行う

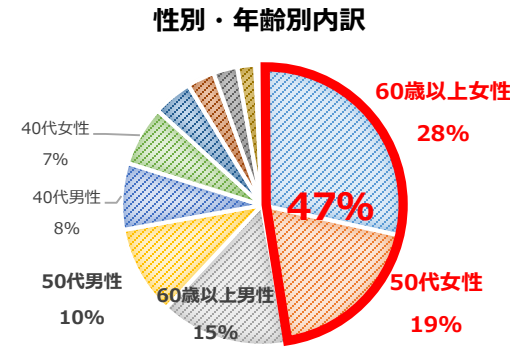
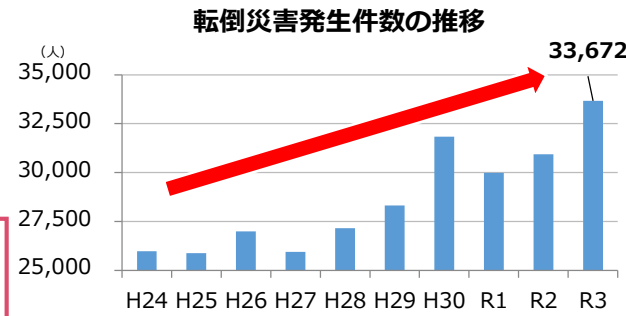
(★) については、高齢労働者の転倒災害防止のため、中小企業事業者は「エイジフレンドリー補助金」（補助率1/2、上限100万円）を利用できます

中小事業者は、無料で安全衛生の専門家のアドバイスが受けられます



# 転倒災害の発生状況（休業4日以上、令和3年）

資料3



## 転倒による怪我の態様

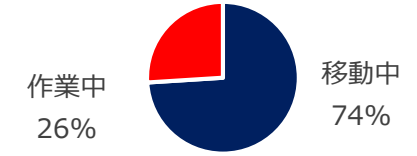
・骨折 (約70%)

- ・打撲
- ・眼球破裂
- ・外傷性気胸 など

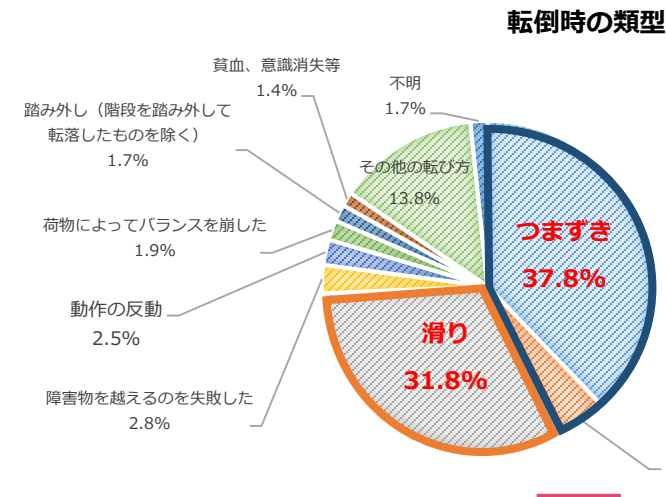
転倒災害による平均休業日数（※労働者死傷病報告による休業見込日数）

47日

## 転倒したのは・・・



転倒災害が起きているのは移動のときだけではありません



- ＜その他の転び方＞
- ・他人とぶつかった・ぶつかった
  - ・台車の操作を失敗した
  - ・他人、動物等を避けようとしてバランスを崩した
  - ・服が引っかった
  - ・坂道等でバランスを崩した
  - ・立ち上がったときにバランスを崩した
  - ・靴紐を踏んだ
  - ・風でバランスを崩した

## 主な原因と対策

## 転倒リスク・骨折リスク

- 一般に加齢とともに身体機能が低下し、転倒しやすくなります  
→「転びの予防 体力チェック」「口コチェック」をご覧ください
- 特に女性は加齢とともに骨折のリスクも著しく増大します  
→対象者に市町村が実施する「骨粗鬆症検診」を受診させましょう
- 現役の方でも、たった一度の転倒で寝たきりになることも  
→「たった一度の転倒で寝たきりになることも。転倒事故の起こりやすい箇所は？」（内閣府ウェブサイト）



転びの予防 体力チェック



口コチェック



内閣府ウェブサイト



# 職場での **転倒** にご注意ください！

## 転倒予防のために 適切な「靴」を選びましょう

### サイズ

**靴と足はフィットしていますか？**

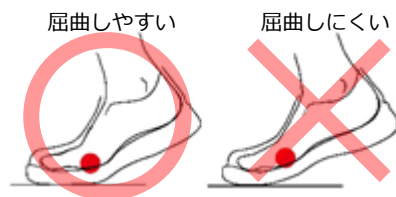
足に合った靴は疲労の軽減、事故の防止につながります。



### 屈曲性

**親指から小指の付け根を適度に曲げられますか？**

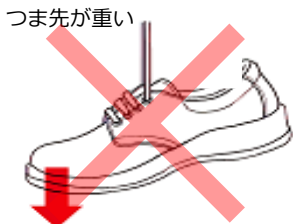
靴の屈曲性が悪いと、疲労の蓄積、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。



### 重量バランス

**靴の前後の重さのバランスはとれていますか？**

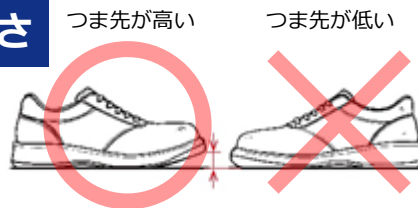
靴の重量がつま先部に偏っていると、歩行時につま先部が上がりやすく、つまずきやすくなります。



### つま先部の高さ

**つま先から床面まで一定の高さがありますか？**

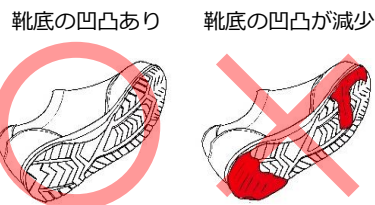
つま先の高さが低いと、ちょっとした段差につまずきやすくなります。



### 靴底の減り具合

**靴底がすり減っていませんか？**

靴底の減りが大きい靴は、滑りやすくなります



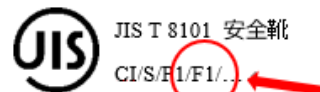
### 耐滑性の有無

**靴の滑りにくさを確認していますか？**

耐滑性を有する靴は、以下の箇所で確認できます。

#### ■安全靴の場合

個装箱のJISマーク表示の近くに「F1」または「F2」の表示があるか確認してください



#### ■プロスニーカーの場合

靴のべろ裏面の表示に、耐滑性のピクト表示があるかを確認してください。



### その他の性能

#### ■静電気帯電防止性

静電気帯電による放電着火の防止と低電圧での靴底からの感電防止性能



#### ■かかと部の衝撃エネルギー吸収性

かかとのクッション性に関係し、かかと部の疲労防止性能



#### ■耐踏抜き性

釘などの鋭利なものから足裏を防護する性能



### STOP！転倒災害プロジェクト

厚生労働省と労働災害防止団体は、労働災害のうちで最も件数が多い「転倒災害」を減少させるため、「STOP！転倒災害プロジェクト」を推進しています。

STOP！転倒

検索





# 先芯がいらぬ作業環境で使用する耐滑靴の探し方

作業時に着用する靴の安全性は、作業環境の状況に応じて決められています。先芯（安全性を確保するために靴のつま先部分に入れる）を履く必要がない作業環境の場合でも、耐滑靴を着用しなければならないことがあります。その場合、先芯入りの安全靴やプロスニーカーであれば、靴の表示で耐滑性を確認できますが、先芯入りでない靴は表示で耐滑性を確認することができません。その場合は下記のメーカーへご相談ください。

職場の状況に適合する靴を紹介できるよう、以下の項目を参考に職場の作業環境等もご説明ください。

## ■ 作業中に重量物を取り扱うことがあるか

重量物を取り扱う場合、安全靴を着用してください



## ■ 作業中や作業後に水を取り扱うことがあるか

水を取り扱う場合、靴の表面素材は人工皮革製・ゴム製が最適です



## ■ 床の材質 塗り床／タイル／カーペット 等 床の材質で適合する靴底が変わります



## ■ 滑りが発生する場合の状況

滑りが起きた状況によって対策が変わります

- (例)
- ・物につまづいた  
→運搬と通路改善
- ・濡れた床で滑った  
→水・油用耐滑靴検討
- ・凍結路面で滑った  
→氷用耐滑靴検討



詳しくはメーカーや販売店にご相談ください

耐滑靴取り扱い店・メーカー

会社名	電話番号	関連商品URL
弘進ゴム株式会社	022-214-3021	<a href="https://www.kohshin-grp.co.jp/FormMail/shoes/">https://www.kohshin-grp.co.jp/FormMail/shoes/</a>
株式会社シモン	0120-345-092	<a href="https://www.simon.co.jp/contact/">https://www.simon.co.jp/contact/</a>
日進ゴム株式会社	086-243-2456	<a href="http://www.nisshinrubber.co.jp/contact/index.html">http://www.nisshinrubber.co.jp/contact/index.html</a>
株式会社ノサックス	082-425-3241	<a href="http://www.nosacks.co.jp">www.nosacks.co.jp</a>
株式会社丸五	086-428-0232	<a href="https://www.marugo.ne.jp">https://www.marugo.ne.jp</a>
ミズノ株式会社	0120-320-799	<a href="https://sports-service.mizuno.jp/btob_service">https://sports-service.mizuno.jp/btob_service</a>
ミドリ安全株式会社	03-3442-8293	<a href="https://midori-fw.jp/">https://midori-fw.jp/</a>